

〔論文〕

「リトミック」はどのように捉えられているのか —学生のアンケートから見えてくるもの—

井上裕子

はじめに

「リトミック」は、スイスの作曲家エミール・ジャック＝ダルクローズ (Émile · Jaques-Dalcroze 1865-1950)¹⁾ が考えた音楽による、一教育法である。

日本に入ってきたのは、1909年に二代目市川左團次 (1880-1940) と小内薫 (1881-1928) によって創立された自由劇場の俳優達の養成に取り入れたのが、始まりである²⁾。ただ教育法として日本に入ってきたのは大正末期からで、主な教育者に小林宗作 (1893-1963)³⁾、天野蝶 (1891-1979)⁴⁾、板野平 (1928-2009)⁵⁾ の三人が挙げられる。

昨今「リトミック」という言葉を、目にしたり耳にしたりすることが多くなっているが、実際保育の学生達は「リトミック」をどのように受け止めているのか、そのことを知りたいとアンケート調査を実施した。

調査の目的

本調査の目的は、保育を学んでいる学生が「リトミック」をどのように捉えているのかを知る所であり、本調査を基に、今後の大学における「リトミック」指導の参考とすることにある。

調査方法

調査票は『「リトミック」に関するアンケート』という題でA4サイズ1枚を渡し、アンケートを行った(資料1)。

調査は、2016年1月8日(金)大阪総合保育大学の4限目基礎心理学の受講者を対象に、授業担当教員を通じて配布し回答を得た。

調査結果と考察

当日の出席者は114名で回答を寄せた学生は111名(回答率97.4%)であった。年齢は18歳が25名、19歳が85名、21歳が1名であった。

1. 「リトミック」という言葉の普及度は

問1で「リトミック」という言葉を聞いたことがありますか」と尋ねた所、図1のような結果となった。聞いたことがあるという学生が全体のほぼ4分の1で、まだまだ広がっていないということが分かる。

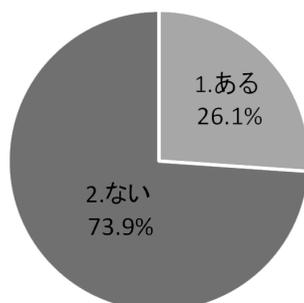


図1 「リトミック」という言葉を聞いたことがありますか。

2. 「ダルクローズ」という言葉の普及度は

問2で「ダルクローズ」という言葉を聞いたことがありますか」と尋ねた所、図2のような結果となった。この質問に関して回答を寄せた者は1%にも満たず、残念ながら創始者に関する知名度のなさが、はっきりと表れる結果となった。

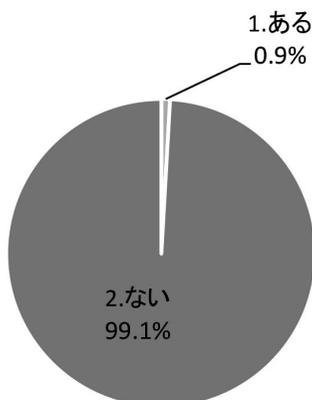


図2 「ダルクローズ」という言葉を聞いたことがありますか。

3. 「リトミック」についての認知度は

問3で「リトミック」について知っていることを自由記述で書いてもらったものをKJ法（川喜田二郎氏提唱・以下同様）で整理し、さらに問1での設問「リトミック」という言葉を聞いたことがありますか」の回答とでまとめたものが表1である。

無回答と知らないという回答の学生を合わせると81.1%で、その内「リトミック」という言葉を聞いたことがあると答えた学生でも、実際「リトミック」について知っていることがないと回答した学生が37.9%であった。

「リトミック」という言葉を聞いたことがある」という回答の中で、その「リトミック」について知っていることの第1位は「身体を動かすこと」(31.0%)で、第2位は「経験したことがある」(17.2%)、第3位は「音楽を使って何かをすること」と「教育法の一つである」が共に(10.3%)であった。

第2位の「経験したことがある」の中には、学生自身が「リトミック」を、ピアノを習い始める前や幼稚園で習っていたという回答があり、彼らの幼少期というと15年ほど前になるので、その頃すでに「リトミック」を使っている所があったというのは、筆者自身少し驚きでもあった。また第3位「音楽を使って何かをすること」の中に「音楽等を使って表現すること」という回答があり、「リトミック」の本質を捉えている学生がいてくれたということは、とても嬉しかった。ユニークな回答としては「その他」の所で、“トミカの新しい商品かな?”、“食べ物か何かですか?”というものもあった。

表1 「リトミック」について知っていること

項目	「リトミック」という言葉を聞いたことが		合計 (%)
	1. ある (%)	2. ない (%)	
1. 身体を動かすこと	9 (31.0)	0 (0.0)	9 (8.1)
2. 声を出すこと	1 (3.4)	0 (0.0)	1 (0.9)
3. 音楽を使って何かをすること	3 (10.3)	0 (0.0)	3 (2.7)
4. 経験したことがある	5 (17.2)	0 (0.0)	5 (4.5)
5. 教育法の一つである	3 (10.3)	0 (0.0)	3 (2.7)
6. 知らない	1 (3.4)	6 (7.3)	7 (6.3)
7. その他	1 (3.4)	4 (4.9)	5 (4.5)
無回答	10 (34.5)	73 (89.0)	83 (74.8)
反応総数 (実人数)	33 (29)	83 (82)	116 (111)
%	26.1%	73.9%	

[各項目の回答と人数]

1. 身体を動かすこと：音楽に乗って身体を使うこと 2、歌に合わせて身体を動かす 1、身体を動かす 4、乳児・幼児が身体を使った遊び 1、リズムに合わせてする体操みたいなもの 1
2. 声を出すこと：歌を歌ったり声を出すこと 1
3. 音楽を使って何かをすること：音楽等を使って表現すること 1、音楽を使って何かをすること 2
4. 経験したことがある：ピアノを習う前（3～5歳）に習っていた 1、練習！というより楽しんで音楽に触れるもの 1、幼稚園でやったことがある 1、自分が小さい時に「リトミック」を習っていた 1、高校の時、小さい子どもと一

緒に、アンパンマン体操や恐竜ジャーを踊りました1

- 5. 教育法の一つである：保育内容の一つ1、音楽と勉強の融合1、音楽に合わせて何かを教える1
- 6. 知らない：ない3、聞いたことがあるだけなので、あまり分かりません1、何も知りません3
- 7. その他：音楽？1、トミカの新しい商品かな？1、5文字である1、カタカナである1、食べ物か何かですか？1

4. 「リトミック」についての関心度

問4で「リトミック」に興味はありますか、その理由は何ですか」と尋ねた所、図3の結果となり、表2はその理由をまとめたものである。

やはり第1位は「よく分からない」(71.2%) で、第2位が「ある」(18.0%) であった。

理由としては、無回答（63.1%）以外での第1位は「何か分からないから」(22.5%)、第2位「役立つと思うから」(5.4%)、第3位「その他」(4.5%)、第4位「知りたいから」(3.6%)、第5位「体験したことがあるから」と「周囲に関わっている人がいるから」が共に(2.7%)で、この中には“母親が「リトミック」の免許をもっている”という回答があり驚きであった。

「よく分からない」の中で無回答が(74.7%)と、いかに「リトミック」がまだ一般的に馴染みのない音楽教育法であるかがよく分かる結果となった。

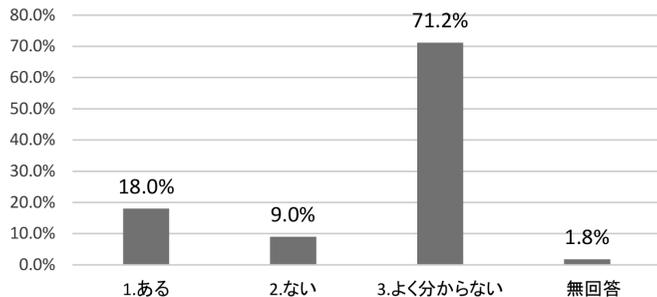


図3 「リトミック」に興味はありますか。

表2 「リトミック」に関する興味の種類と内容

項目	「リトミック」に興味は				合計 (%)
	1. ある (%)	2. ない (%)	3. よく分からない (%)	無回答	
1. 何か分からないから	4 (20.0)	2 (20.0)	19 (24.1)	0 (0.0)	25 (22.5)
2. 体験したことがあるから	3 (15.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.7)
3. 周囲に関わっている人がいるから	3 (15.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.7)
4. 知りたいから	3 (15.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	4 (3.6)
5. 役立つと思うから	5 (25.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	6 (5.4)
6. その他	2 (10.0)	1 (10.0)	2 (2.5)	0 (0.0)	5 (4.5)
無回答	2 (10.0)	7 (70.0)	59 (74.7)	2 (100.0)	70 (63.1)
反応総数 (実人数)	22 (20)	10 (10)	82 (79)	2 (2)	116 (111)
%	18.0%	9.0%	71.2%	1.8%	

[各項目の回答と人数]

1. 何か分からないから：聞いたことがないから7、何か分からないから16、しっかりと分かっていないから1、あまり知らない1
2. 体験したことがあるから：幼稚園の時や高校の時に体験して楽しかったから1、自分がしていたから1、高校の時経験して楽しかったから1
3. 周囲に関わっている人がいるから：インターン先の担当していないクラス（4・5歳ぐらい）がしているから2、母親がリトミックの免許をもっているから1
4. 知りたいから：言葉の意味をまず知りたい1、もっと知りたいため2、気になるから1
5. 役立つと思うから：将来に役立つと思うから2、先生になる上で、できたら良いと思うから1、教育系なら興味がある1、子どもと関わりながら音楽ができるから1、楽しく勉強できたら身に付きやすいと思うから1
6. その他：資格があることすら知らなかった1、やったことがないから1、もしトミカならコレクションしたい1、音楽が好きだから1、特にないから1

5. 「リトミック」を学んでみたいと思いますか

問5の結果が図4である。学んでみたいの程度を、資格があるなら4点～学びたくない1点の4件法で聞いたが、学んでみたい程度を平均2.5とした所、平均値2.26、標準偏差0.68となった。

「資格があるなら学んでみたい」と「資格のあるなしに関わらず学んでみたい」を合わせると(21.6%)であったが、内訳が

「資格のあるなしに関わらず学んでみたい」(13.5%)で、「資格があるならば学んでみたい」(8.1%)よりも多かったことは、嬉しい意外性であった。ただ、やはり「学びたくない」と回答を寄せた者(0.0%)は皆無であったが、「よく分からない」(76.6%)が約8割弱を占めていた。予想していた

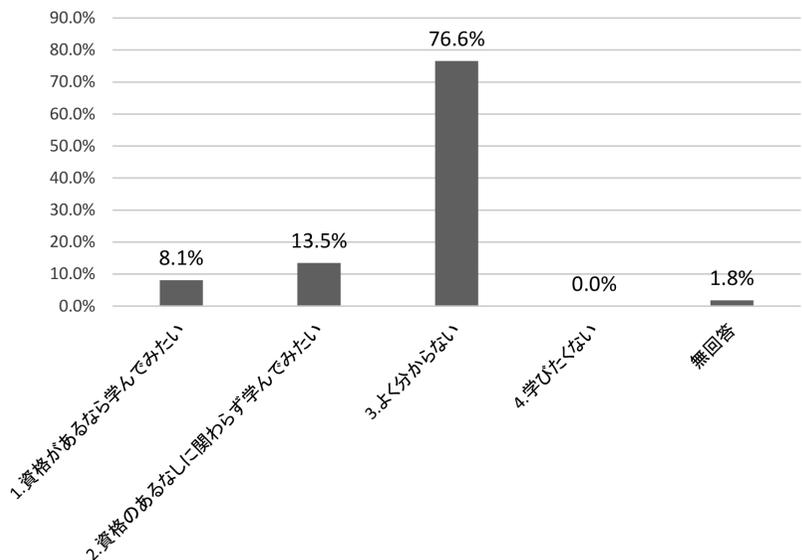


図4 「リトミック」を学んでみたいと思いますか。

とはいえ、まだまだ「リトミック」が身近な音楽教育法ではないということが、大変よく分かる結果となった。

表3 「リトミック」を学んでみたい程度

項目	「リトミック」という言葉を聞いたことが		合計 (%)
	1. ある (%)	2. ない (%)	
1. 資格があるなら学んでみたい	2 (6.9)	7 (8.5)	9 (8.1)
2. 資格のあるなしに関わらず学んでみたい	11 (37.9)	4 (4.9)	15 (13.5)
3. よく分からない	16 (55.2)	69 (84.1)	85 (76.6)
4. 学びたくない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)	2 (2.4)	2 (1.8)
人数	29	82	111
%	26.1%	73.9%	

おわりに

今回アンケートを実施してみて、「リトミック」という言葉も内容もまだまだ遠い存在で、馴染みのあるものではないということが、よく分かった。

「リトミック」はエミール・ジャック＝ダルクローズが考えた音楽教育法であるが、その中にはマリア・モンテッソーリ (Maria Montessori 1870-1952)⁶⁾ の考え方に影響を受けている所もある。つまりダルクローズの本の中にモンテッソーリの内容の一部が、モンテッソーリの本の中にダルクローズの内容の一部が入っているのである⁷⁾。

モンテッソーリは、イタリアで初めての女性医学博士であり、障がい児教育や女性解放などに関する講演活動を活発に行った人物でもある。彼女が考えたモンテッソーリメソッドとは、知的障がい児へ感覚教育法 (知識として暗記したものではなく、経験に基づいて感覚を養うというもの) を行い、知的水準が上がった結果を踏まえて、これは障がい児だけではなく健常児にも適応するのではないかという考えから、1907年貧困層が暮らすローマのサン・ロレンツォのスラム街に、健常児を対象とした保育施設「子どもの家」を開き、その中で実践され、このメソッドが完成された。

彼女のメソッドとは、人間の幼児期にも生物と同じように敏感期 (身体的・精神的な発達を遂げるためにある一定期間、強く「あることがしたい、取り組みたい」などの衝動の湧き起こる時期のことで、一定の期間が過ぎるとその気持ちも薄れていく) があり、そのことによって子ども達は次々と新しい能力を獲得していくというもので、「子どもの家」では、整えられた環境を準備し、子ども達が自発的な活動に取り組める自由を保障し、大人はあくまで、その子ども達の活動を援助する存在に徹するという考え方であった。

モンテッソーリはイタリア、ダルクローズはスイスであり、実際二人が出会ったという記述はな

いが、1912年スイスのジュネーブに開校された私立学校であるルソー研究所（スイスの心理学者エドゥアール・クラパレド Édouard Claparède (1873-1940)⁸⁾）によって教育理論を実践に移す場として設立された。彼はリトミックに大きな関心を寄せていた）の中に「子どもの家」がつくられ、その「子どもの家」にダルクローズは、一人息子のガブリエルを入園させている。またダルクローズは、自身が作曲した歌を捧げている⁹⁾。

これらのことからダルクローズがモンテッソーリの考え方に、関心を寄せていたと思われる。

「リトミックは音楽を通して即時的に経験させようとし、モンテッソーリは生活の流れの中での積み重ね」¹⁰⁾によって、子ども達が自己形成されていくということを目的とした教育であることが、お互いに共通している所なのである。

現代の「リトミック」の指導の中に、紙を貼る（○・△・□など）活動も入ってくるが、その時、手の汚れないスティックのりを使わず、あえてチューブなどに入っているのりを指先につけて行わせる場合もある。手は汚れるし手拭きも必要で面倒ではあるが、紙を貼るために、この面積にはどれぐらいののりが必要であるのかを、実際に指先に取り経験していく中で、その物に適した量を感覚で覚えていくという活動なのである。

今回のアンケートは、「リトミック」がまだまだ一般化されていないという結果ではあったが、「資格があるなしに関わらず学んでみたい」に13.5%あったことは、「リトミック」が注目され始めた兆しであると思われる。ただそれ故に「リトミック」が、保育の中で何を与えていくものであるのかということ、学生に指導していく側である私達が、この教育法の根本をしっかりと理解した上で学生を導いていけるかどうかによって、学生が保育士として現場で子ども達を導いていけるかどうかにかかってくるということ、深く考えると共に、責任の重さを痛感した。

残念ながら国家資格ではないが、資格や免許が大事なのではなく、子ども達自らに成長する力があるという教育をどのように行っていけばいいのか、その方法を見つけ出す考え方を教えることが、学校教育においては大切なのである。

改めて、今回のアンケート結果を基に一言すれば、学生への音楽教育の素養と幅広さを習得させるために、「リトミック」の活用を提言したい。

謝辞

今回のアンケートは、大阪総合保育大学の坂口哲司教授の協力を得て、大阪総合保育大学の基礎心理学の受講生へのアンケートを実施することができました。この場を借りまして、深く謝意を申し上げます。

引用・参考文献・注

- 1) エリザベス・パンドゥレスパー著. 石丸由理訳. ダルクローズのリトミック. ドレミ楽譜出版社, 2012, p.122.
- 2) 同上「ダルクローズリトミックの日本への導入」小林恵子. p.126.

- 3) 同上 p.134-135.
- 4) 同上 p.142-143.
- 5) リトミック研究センター. 「リトミックの歴史」. <https://www.eurhythmics.or.jp/whats/history.php>
- 6) 国際モンテッソーリ教育101年祭実行委員会・編. マリア・モンテッソーリ「平和は子どもからはじまる」と世界中につたえたイタリアの教育者. てらいんく, 2008.
- 7) リトミック研究センター教員養成ディプロマAコースの夏季合宿研修(2016年8月27～29日開催)の板野和彦「リトミック講義」の口述による。
- 8) クレパレード. ブリタニカ国際大百科事典小項目事典の解説. コトバンク. <https://kotobank.jp/word/クラパレード-56480>
- 9) フランク・マルタン, チボル・デヌス, アルフレット・ベルヒトルド, アンリ・ガニユパン, ベルナール・レイシエル, クレル＝リズ・デュトワ＝カルリエ, エドモン・スタンドレ著. 板野平訳. 作曲家リトミック創始者エミール・ジャック＝ダルクローズ. 全音楽譜出版社, 1977, p.107.
- 10) 岩崎光弘・千葉和恵 [共著]. こどもがグングン伸びる「音楽あそび」. PHP研究所, 2002, p.83'.

(いのうえ ひろこ：非常勤講師)

資料 1

「リトミック」に関するアンケート

井上裕子 2016年1月

(データは統計的に処理しますので、個人にご迷惑が及ぶことはございません。)

各設問に該当する数字を○で囲んで下さい

性別 1. 男 2. 女 年齢 () 歳

問1. 「リトミック」という言葉を聞いたことがありますか。

1. ある 2. ない

問2. 「ダルクローズ」という言葉を聞いたことがありますか。

1. ある 2. ない

問3. 「リトミック」について何かご存知のことはありますか。

自由にお書きください。

問4. 「リトミック」に興味はありますか。

1. ある 2. ない 3. よく分からない

その理由は何ですか。自由にお書きください。

問5. 「リトミック」を学んでみたいと思いますか。

1. 資格があるなら学んでみたい
2. 資格のあるなしに関わらず学んでみたい
3. よく分からない
4. 学びたくない

ご協力有難うございました。